

■梅ヶ谷藤太郎(初代)

うめがたにとうたろう

阿部正弘首座1845=

15代横綱。一場所2敗を恥じて引退、両国国技館の建設はじめ、相撲の近代化と発展に貢献。

筑前国志波村梅ヶ谷で、農家小江藤右衛門・トメの次男に生まれる。本名藤太郎。18上に兄、10上に姉。誕生時すでに5kg近くあり、16キロもある石臼にくくり付けられるも、そのまま庭をひきずり這い回る。両親の夫婦奉公先の甘木の藍染紺屋相川卯兵衛に連れられていく。

孝明天皇・1846=1歳

国定忠治疎・1850=5歳

尊徳報徳論・1851=6歳

身長、体重共に同年輩の子どもたちを遙かに凌駕し、官相撲などで圧倒的な強さを発揮。

貧乏から逃れたいと、読み書き・算盤・習字などを学び始め、

ペリー来航・1853=8歳

開国開港・1854=9歳

目をつけた甘木の不取川清助(大坂相撲頭取湊由良衛門の"目代")と父が上方力士にすることを約束。

松下村塾・1856=11歳

筑後国大石の弥吉酒場(造り酒屋)へしこみ男として奉公。米谷米揚き場でも働く。

五ヶ国条約・1858=13歳

安政の大獄・1859=14歳

榎田門外変・1860=15歳

佐賀蓮池藩崎村の兵働医院へ奉公。官相撲で頭角を顕わし、冠者宮での力石担ぎ大会で優勝。

筑後の官相撲・草相撲の雄"小桜"こと中津留伴三郎と覇者を争い、以後、中津留に指導を請う。

生麦事件・1862=17歳

8月18日政変・1863=18歳

禁門の変・1864=19歳

江戸・大坂合併相撲の甘木巡業の際、"梅ヶ谷"の四股名で飛入り活躍。入門をめざし、大坂に出る。

不取川清助からの紹介状を携え、大坂相撲頭取湊由良衛門を訪ねて入門し、番付外で初土俵。

初めて番付に四股名が載る。

大政奉還・1867=22歳

明治維新・1868=23歳

戊辰戦争終・1869=24歳

初の日刊新聞1870=25歳

廃藩置県・1871=26歳

学問のすすめ1872=27歳

明治6年政変・1873=28歳

佐賀の乱・1874=29歳

初の民間工場1875=30歳

三つの内乱・1876=31歳

父が死去。近畿地方世情不安定で九州巡業、郷里筑前国山田に来た際、東方大関を張る。

東小結から東関脇となり、初優勝。

東大関になるも病気休場。上位陣の休場者が多数で大阪・京都合併相撲後、東京相撲を目指して上京。

筆頭年寄の玉垣額之助の門に入る。幕下格付付から西十両格。実力を発揮するも冷遇されて奮奮、

この間、優勝3回、勝率8割4分で、年寄大嶽の娘行と結婚後、*入幕するや初優勝、悲願に一步近づく。

長女センが誕生。

甘木に地方巡行の際、"秋月の乱"で反徒逮捕に協力、大活躍。この年から連勝始まるも、昇進抑えられ、

大久保暗殺・1878=33歳

琉球処分・1879=34歳

明治14年政変1881=36歳

岩倉具視没・1883=38歳

秩父事件・1884=39歳

内閣発足・1885=40歳

初の対等条約1888=43歳

帝国憲法発布1889=44歳

帝国議会始・1890=45歳

大本教・1892=47歳

妻行が死去。

ようやく西大関に昇進、

長州藩の"抱え"を番付に冠する。

辻貴美と再婚。東大関若島に敗れ、*ついに58連勝でストップ。なお、3連続優勝。維新後不況の角界復興の

端緒をつくり、東京会所より一代年寄待遇で現役のまま弟子を持つことを許される。

ついに、東大関となり、日本相撲界頂点に立つ。

東大関で9回目の優勝後、横綱免許。天覧相撲。正取組の大関楯山(若島改め)戦では勝利。大達との"御好み一番"では壮絶な死闘を繰り返し、引き分けるという歴史に残る大一番となる。

*3場所目に2敗したのを恥じて引退、年寄雷権太夫を襲名。

東京大相撲の入幕後、22場所で、優勝9回(全勝8回)、勝率9割5分1厘は歴代横綱第1位。

東京大角舡協会内の紛議で辞職を申し出るが、本所元町署長の説得で取締を続行。

兄が死去。富山巡業で剣山が見出した押田音次郎と入門固めし、小江家(梅ヶ谷藤太郎)の養子とする。

この間、高砂浦五郎とともに、正副取締をつとめながら、相撲の近代化に努め、

音次郎が梅ノ谷音松で序のロデビュー。

日清戦争始・1894=49歳

母が死去。

子規句歌革新1898=53歳

Bushidou・1899=54歳

ビヲ国産化・1900=55歳

田中正造直訴1901=56歳

教科書疑獄・1902=57歳

日比谷公園・1903=58歳

協会トップの地位が確立すると、

以後、協会の立て直しに奔走。

前年に大関に昇進し養子の梅ノ谷音次郎を娘センと結婚させる。

音次郎が二代目梅ヶ谷藤太郎を襲名。

女婿の二代目梅ヶ谷が20代横綱となった年、自らは少年時代の恩人兵働龍潜の墓前で土俵入り。

日露戦争終・1905=60歳

満鉄発足・1906=61歳

大相撲常設館建設委員長となり、資金の調達に奔走。その人徳で多額の融資を得、

アヲキ創刊・1908=63歳

伊藤博文暗殺1909=64歳

*悲願の(国技館)が両国回向院内に竣工。板垣退助を委員長に開館式。

大逆事件判決1911=66歳

明治天皇没・1912=67歳

東京・大阪両協会が絶交状態となるなか、東京相撲では新橋倶楽部事件など、事件収拾に没頭。

21ヶ条要求・1915=70歳

民本主義・1916=71歳

ロシア革命・1917=72歳

*正式に隠居後も、偉大な功績と人徳に対して、協会から"大雷"の尊称とともに、給金を贈られ、

相撲記者碑、法界萬壺塔を回向院境内に建立。

原敬首相暗殺1921=76歳

水平社結成・1922=77歳

関東大震災・1923=78歳

後妻貴美が死去、娘センが2代目梅ヶ谷と離婚、青年時代の師中津留伴三郎死去、

大地震により大部分の家財を消失、

円本時代始・1926=81歳

金融恐慌・1927=82歳

共産党事件・1928=83歳

ついに、2代目梅ヶ谷藤太郎が死去してしまうという不幸続きのなか、

老衰のため、没した。

その誠実な人情家ぶりは落語や芝居の「幸助餅」の報恩美談になって現在も上演されている。

「第十五代横綱初代梅ヶ谷藤太郎伝記」、「この人どんな人」、「没年日本史人物事典」、平凡社百科事典、